

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成 年 月 日

協議会名: 弥富市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 平成30年度地域公共交通確保維持改善計画(地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】  ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通(株)	弥富市内を巡回する3路線(北部ルート、東部ルート、南部ルート)を運行し、各ルートとも近鉄弥富駅やイオンタウン、総合福祉センター等の主要な施設にアクセス。また、東部ルートは地域間幹線系統である飛鳥公共交通バス蟹江線と一部バス停を共有。	東部ルートの運行改善 →東部ルートについて、運行便数を増加させ、利便性向上を図るための運行ルート見直しについてパブリックコメントを実施したが、一部利用者からの反対意見等を尊重し中止にした。ただし、来年度から2か年に渡り、現行の地域公共交通網形成計画を見直し、あわせて運行方法も含めた地域公共交通網の再編を検討することとした。 継続的な利用促進活動の推進 →利用者アンケート案内文にきんちゃんバスの情報等を掲載 →イベントの場を活用した周知活動を実施 →無料お試し乗車券の配布を実施 等	A 計画通り、弥富市内を巡回する3路線を運行するとともに、モニタリング調査(利用者アンケート)や利用実態調査(利用者数(毎日)、OD(1週間))等を実施し、できる限り利用実態やニーズの把握に努めた。また、協議会を計3回開催するとともに、無料お試し乗車券の配布による新規利用の発掘、広報誌やHP、イベントの場等を活用した情報提供に努めており、適切に実施している。	A 【利用者満足度の向上】 ・モニタリング調査(利用者アンケート)による満足度について50%以上の維持目標とし、前年度よりも減少したものの満足度50%以上を維持 ⇒60.0%→53.1% (「非常に満足」「やや満足」の割合) B 【1便当たり乗車人員数の増加】 ・1便当たり乗車人員数の前年度からの増加を目標とし、南部ルートを除き増加 A ⇒北部ルート:8.8人/便→9.1人/便 B ⇒南部ルート:9.0人/便→8.6人/便 A ⇒東部ルート:9.1人/便→9.8人/便	地域公共交通網の見直し・再編 →東部ルートの見直しが中止になったほか、満足度や一部ルートの利用者数が伸び悩んでいる。そこで、各地域で本当に望まれる公共交通の姿を明らかにしより利便性の高い持続性のある公共交通とするため、現行の地域公共交通網形成計画を見直し、あわせて運行方法も含めた地域公共交通網の再編を検討する。(来年度から2か年で検討予定) →シンポジウムや地域意見交換会等を開催し、公共交通について考えるきっかけづくりもあわせて実施 等 継続的な利用促進活動の推進 →市HPや広報等多様な媒体を活用した継続的な周知のほか無料お試し乗車券など利用促進活動を推進

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 年 月 日

協議会名:	弥富市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	平成30年度地域公共交通確保維持改善計画(地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<b>市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持</b> (利用者実態調査等の結果より、利用者総数は少ないものの「利用者の約8割が65歳以上の高齢者で、買い物や通院、公共施設の利用目的の利用が多い」という特徴を把握することができ、高齢者等交通弱者の交通手段確保の必要性が明らかにされた。また、「弥富市地域公共交通網形成計画」に基づき、今後も市内バス運行の改善・充実のため、利用者実態調査やモニタリング調査を実施し、ニーズに即したダイヤの見直し、隣接する自治体との連携等の検討を行い、あわせて地域公共交通確保維持事業により、市民生活と地域を支える持続可能な地域内フィーダー系統としてのコミュニティバスを確保・維持していくことが必要である。)

中部様式1

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 弥富市地域公共交通活性化協議会

平成21年7月10日設置

フィーダー系統 平成29年6月29日 確保維持計画策定

### 地域の特性と背景

- 平成22年3月に「弥富市地域公共交通総合連携計画」策定、平成28年3月に「弥富市地域公共交通網形成計画」策定
- バス利用者の約6割が75歳以上、65歳以上を含めると約8割が高齢者で、買い物や通院、公共施設の利用目的が多い。（75歳以上には無料パスカードを全員に配布）

### 総合計画・都市マスにおける公共交通（バス）の位置づけ

- 市民の日々の暮らしにおける移動手段としての利便性向上、地球温暖化の抑制に向けたCO2の削減、高齢者等の外出機会の支援

### 弥富市地域公共交通網形成計画

#### ○計画期間

平成28年度～平成32年度

#### ○基本方針

市民生活と地域を支える  
持続可能な地域公共交通  
の確保・維持

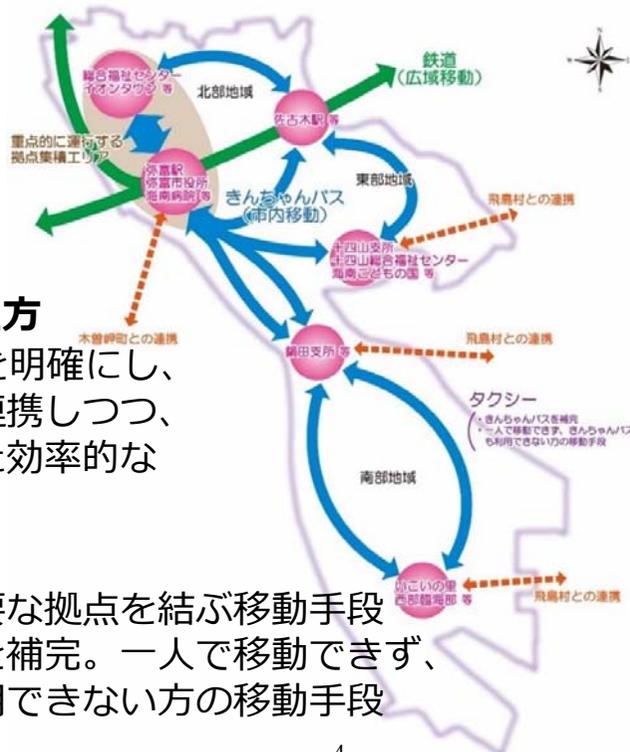
#### ○地域公共交通の連携の考え方

主要な地域公共交通の役割を明確にし、まちづくり等の関連計画と連携しつつ、地域特性や利用状況に応じた効率的な地域公共交通を展開

**鉄道**：広域的な移動手段

**きんちゃんバス**：市内の主要な拠点を結ぶ移動手段

**タクシー**：きんちゃんバスを補完。一人で移動できず、きんちゃんバスも利用できない方の移動手段



### 現在の地域公共交通網



**主な取組み内容**

**○ニーズに即した運行改善の検討** (実施主体：市、市民、交通事業者)

- ⇒東部ルートについて、運行便数を増加をさせ、利便性向上を図るための運行ルート見直しについてパブリックコメントを実施 (H30.2.1~H30.3.2)
  - 一部利用者からの新ルートへの反対意見等を尊重し中止にした。ただし、来年度から2カ年に渡り、現行の地域公共交通網形成計画を見直し、あわせて運行方法も含めた地域公共交通網の再編を検討することとした。
- ⇒北部ルート・東部ルートについて、地元の強い要望を踏まえ新たにバス停2箇所を設置し、あわせて現在の運行の平常時の遅延状況も踏まえ、ダイヤの検討を実施 (H31.4.1ダイヤ改正予定)

**○情報提供等周知活動の実施** (実施主体：市)

- ⇒利用者アンケート案内文にシルバーパスやサイクル&バスライド駐輪場情報を掲載
- ⇒広報誌への情報掲載、健康フェスタ (H29.10.22) や、やとみ春まつり (H30.4.7~4.8) 等のイベントの場を活用した情報提供等の周知活動を実施

**○無料お試し乗車券による新規利用者の掘り起し** (実施主体：市、交通事業者)

- ⇒市内全世帯及び小学生に配布し、利用期間は親子での継続的な利用機会の創出を図るために夏休み期間に設定 (新規利用者84名のうち約3割が小学生。約9割に今後の利用意向)

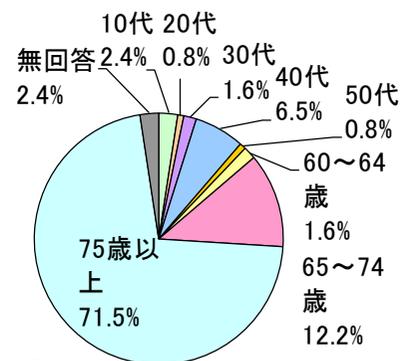
●年度別利用者数 (人/年)

⇒全体では増加、ルート別では南部ルートを除き増加

	H29年度 H28.10~H29.9	H30年度 H29.10~H30.9	H29からH30への 増減	
全体	78,494	78,835	+341	+0.4%
北部ルート	28,240	29,321	+1,081	+3.8%
南部ルート	37,334	35,682	-1,652	-4.4%
東部ルート	12,920	13,832	+912	+7.1%

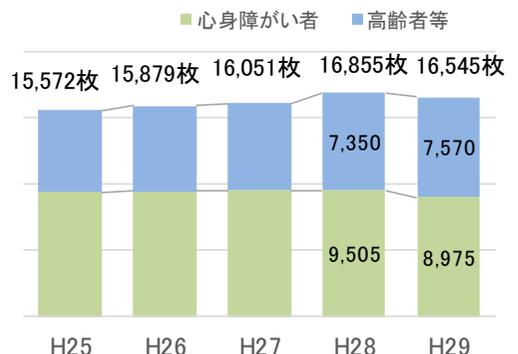
●利用者年代構成

⇒75歳以上約7割(無料利用)



●福祉タクシー料金助成事業

⇒高齢者等は年々増加傾向



### 目標1：利用者満足度の向上（50%以上の維持）

○現在の利用の中心となっているのは高齢者であるが、買い物や通院、通勤・通学に利用されるなど、多様な方が利用しルートによっても利用特性が異なる。誰もが使いやすい地域公共交通であるためには、これら利用特性や地域特性に応じた的確で継続的な改善が必要

⇒継続的な改善を総合的に評価する指標として  
 利用者の満足度を把握し、その向上を図る

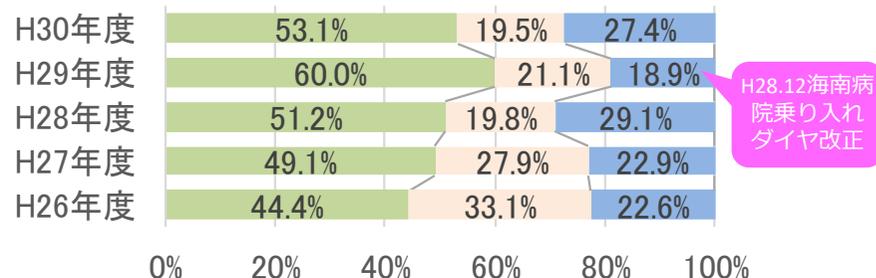
前年度よりも満足度は低下したものの

50%以上は維持

**目標達成**

●満足度の推移

■とても満足・やや満足 ■ふつう ■やや不満・とても不満



### 目標2：1便当たり平均乗車人員の増加（前年度からの増加）

○将来的な人口の減少が予測されている中、使いやすく効率的で、持続可能な地域公共交通へと発展し続けるためには利用者の確保が必要

⇒現在の1便あたり平均乗車人員の状況を最低限維持するとともに、継続的な改善と利用促進策の展開により、できる限り増加を目指す

全体では増加ルート別では南部ルートを除き増加

●1便あたり平均乗車人員の推移（人/便）

**一部を除き目標達成**

	H26年度 H25.10~H26.9	H27年度 H26.10~H27.9	H28年度 H27.10~H28.9	H29年度 H28.10~H29.9	H30年度 H29.10~H30.9	H29からH30への増減	
全体	7.9	8.0	8.2	8.9	9.0	+0.1	+0.7%
北部ルート	6.8	7.3	7.9	8.8	9.1	+0.4	+4.2%
南部ルート	9.2	8.7	8.5	9.0	8.6	-0.4	-4.2%
東部ルート	6.7	7.6	8.1	9.1	9.8	+0.7	+7.4%

### 地域公共交通網の見直し・再編

- 東部ルートの見直しが中止になったほか、満足度や一部ルートの利用者数が伸び悩んでいる状況にある。そのため、各地域で本当に望まれる公共交通の姿を明らかにしより利便性の高い持続性のある公共交通とするため、現行の地域公共交通網形成計画を見直し、あわせて運行方法も含めた地域公共交通網の再編を検討、実施
- シンポジウムや地域意見交換会等を開催し、公共交通について考えるきっかけづくりもあわせて実施
  - ⇒地域公共交通網形成計画を見直し：平成31年度から2カ年

### 継続的な利用促進活動の推進

- 市HPや広報等多様な媒体を活用した継続的な周知のほか、新規利用者を確保するために無料お試し乗車券の配布も継続実施するなど、利用促進活動を推進することが必要
  - ⇒時刻表に回数券や定期券、シルバーパスなどの料金負担軽減策のほか、サイクル&バスライド駐輪場に関する情報、鉄道（近鉄）や蟹江線との乗り継ぎダイヤ等の情報を掲載
  - ⇒アンケート調査や広報、HP、健康フェスタ等のイベントなどの住民との接点を活用し、きんちゃんバスの情報やかしこいクルマの使い方の情報を提供
  - ⇒無料お試し乗車券の配布による継続的な新規需要の掘り起しの継続的实施

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

## 弥富市地域公共交通活性化協議会

平成21年7月10日設置

フィーダー系統 平成29年6月29日 確保維持計画策定等

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>・平成28年12月により全ルートが海南病院に乗り入れたことをはじめ、東部ルートと地域間幹線の飛島公共交通バスの乗継ダイヤの調整、バス停の新設など、より利便性の向上を図っていることを評価します。</p>	<p>・地域住民からの強い要望を踏まえ、利便性向上を図るために、既存ルート上へのバス停の2箇所新設を協議、決定（平成31年4月から運用開始予定）</p>	<p>・弥富市地域公共交通網形成計画の見直しに着手し、あわせて運行方法も含めた地域公共交通網の再編を検討（平成31年度から2カ年）</p>
<p>・今後もモニタリング調査（利用者アンケート）や利用実態調査、OD等各種調査を実施した上で、東部ルートについて、十四山総合福祉センターや弥富市役所等中心部への利用が多いなどの利用特性を踏まえ、運行ルートを改善し、あわせて地域間幹線系統である飛島公共交通バス蟹江線とのさらなる乗り継ぎ改善を図ることを期待します。</p>	<p>・今年度も利用実態調査やバス停乗降者数調査（OD）、モニタリング調査（利用者アンケート調査）等の各種調査を実施 ・東部ルートの運行ルート変更パブリックコメント実施（一部利用者からの反対意見等を尊重しルート変更中止）</p>	<p>・弥富市地域公共交通網形成計画に即し、事業や調査を今後も継続的に実施 ・弥富市地域公共交通網形成計画の見直しに着手し、あわせて運行方法も含めた地域公共交通網の再編を検討（平成31年度から2カ年）</p>

